

北大阪健康医療都市の今後への期待と 吹田市のアクション

吹田市

今後への期待と吹田市のアクション（総論）

1. 基本的なスタンス

- 令和2(2020)年度、吹田市は市制施行80周年を迎え、同時に中核市に移行する。
- 保健医療分野を中心に各種権限が移譲され、医師をはじめとした専門職が職員に加わる。医療政策・健康寿命延伸政策ともにこれまで以上に力を入れていく。
- 健都に関しては、これまでも、そしてこれからも、まちのコーディネーターとして（公園等は主体として）必要な役割を果たしていく。摂津市と手を携え、大阪府とは更に密な連携を図って健都の推進に取り組む。

2. 「健都」への期待

ハード面での「まち」ができて完成ということではなく、継続的に新しいもの・ことが生まれてくるまちを目指していく必要がある(=ソフト面でのまちの運用が重要)。そのため、以下の3つの視点が重要であると考える。

① まとまる

- ・ 健都には産官学民の多様な主体が集い、特に、クラスター形成だけではなく実証フィールドも整備している点が特徴。個々の主体ごとの事業展開のみではなく「健都の一員」という意識の下、一歩踏み込んだ提案を期待したい。
- ・ 「産」「学」は健康寿命の延伸に向けて世界をリードする研究・開発、市民のライフスタイルの変容にコミットするような新サービスの創出に向けた議論をリードして欲しい。
- ・ 「官」は、そのプロセスにおいて「民」を巻き込んだ実証事業等のサポートを行うとともに、先駆的な事業を実現するための共同研究や官民連携事業の実施を期待したい。

② 巻き込む

- ・ ①のようなエコシステムを実現するための産学官民連携のプラットフォーム構築に取り組む。
- ・ 健都内はもちろん、外の企業等も参加できる形にして、イノベーション創出の機会を拡大していく。

③ 発信 横展開

- ・ 吹田市としては、健都に集積する資源を最大限活用し、健都エリアのみではなく全市的に健康・医療のまちづくりを加速させていく。健都はその拠点であると考えている。
- ・ 地域包括ケアシステムの構築という観点でも、予防から医療・介護サービスの提供、看取りまでの一連の流れにおいて関係者が連携したモデル的な取組を期待。

「健都」のまちづくりの更なる推進（各論その1）

コーディネーターとして

産学官民連携プラットフォームの構築

健都の特長

- ①「産・学」：健康・医療クラスター形成、オープンイノベーションの推進
⇒「循環器病の予防と制圧」を実現、新たなヘルスアドバイスの創出
- ②「産・官・民」：実証フィールドと予防医療・健康づくり実践の場
⇒健康への意識を変え、新しいライフスタイルを創造

①②を好循環で機能させる「仕組み」を構築

- ▶産・学・官・民の様々な主体が集う健都のポテンシャルを最大限発揮し、まちぐるみで「新たなサービス、新たな予防・健康プログラム」を創出・提供

(参考資料スライド5)

「健康・医療のまちづくり」会議の運営等

健康・医療のまちづくり会議

- ✓北大阪健康医療都市を中心とした健康・医療のまちづくりを推進していくため、関係団体による取組についての**情報交換や意見交換の場**
今後の会議の開催回数等については検討中

連絡調整会議

- ✓健都内の**各事業主体者**による**具体的な**取組についての連携等に関する意見交換や情報交換の場

プレーヤーとして

健都イノベーションパークにおけるクラスター形成の推進

アライアンス棟関係 (国立健康・栄養研究所)

- 令和4(2022)年春の操業開始
- 国立健康・栄養研究所と健都内外企業との連携を促進
- 当クラスターと大阪府内ほか神戸や京都等、他地域のクラスターとの広域連携を促進

残区画の事業者募集

- 国立循環器病研究センターとの連携を基本とした多様な健康医療関連企業の集積
- パークに不足する機能の確保
(一例)健康をコンセプトにしたカフェ等、施設利用者同士の交流や市民の憩いの場の提供

大阪府（広域）・摂津市とも協調・連携のうえ推進

健都レールサイド公園等における予防医療の実践

令和2（2020）年4月から、健都レールサイド公園及び吹田市立健都ライブラリーを一体的に活用するため、指定管理者による運営を開始。

『健都から生まれ・育み・広がるヘルシー・パークライフ』

運動プログラム

最大750回/年

生涯学習プログラム

140回/年以上

健康相談コーナー

健康機器健康相談

(参考資料スライド6-7) 2

全市的な健康・医療のまちづくりの更なる推進（各論その2）

健康寿命の延伸

「健康寿命延伸ビジョン」の策定

具体的な取組
(各個別計画)

庁内方針として「(仮)吹田市健康寿命延伸ビジョン」を検討中

- 1 目指すべき暮らしのあり方
いつまでも元気に自分のやりたいことができる
- 2 取組の基本方針
「健康」とは言わない「健康づくり」→無関心者層への働きかけ
- 3 健康寿命延伸に必要なライフスタイルを整理
(例えば)「楽しむ・知る・人とつながる・眠る・動く・出かける
食べる・診てもらう」等を生活習慣に無意識に取り込むための
仕掛けづくり

(参考資料スライド8-11)

地域医療の推進

在宅医療提供体制の推進

(将来の医療需要に見合った必要な在宅医療の環境づくりの推進)

主な取組

- 訪問看護と病院看護の連携促進
- 病病連携・病診連携促進のための病院職員対象研修会の実施
- ACP(※)に関する医療介護関係者の理解促進・スキル向上のあり方の検討
- 医師の在宅医療に対する負担軽減のための連携体制の検討

健康すいた21（疾病予防・重症化予防）

- スモークフリーへの取組
- 健診システムの確立
 - ・ 吹田市特有の健診システム
(国立循環器病研究センター予防健診部監修)
 - ・ ハイリスク者・要医療者への支援体制
- 身近な生活環境の中等での健康づくりの機会の創設
- 国立循環器病研究センターとの吹田研究(コホート研究)への協力等
(参考資料スライド12)

吹田健やか年輪プラン

(介護予防・フレイル対策・認知症支援)

- 高齢者フレイル等予防推進事業
- ひろばde体操でのノルディックの取組の拡大
- patonaの地域交流スペースでの介護予防教室の実施およびその後のグループ活動の展開
- 健都ライブラリー等を活用した情報発信
(参考資料スライド13-14)

医療に関する普及啓発の推進

(在宅医療やかかりつけ医等の推進に関する市民啓発)

- 在宅医療や在宅看取りに関する市民講演会の実施
- 上手な医療のかかり方等に関する出前講座の実施
- かかりつけ医等の定着促進やACPに関する市民への情報提供や啓発のあり方についての検討

中核市移行後、病床の機能分化連携等の医療施策と一体的視点にて展開 (参考資料スライド15-21)

(※) ACP(アドバンス・ケア・プランニング) : 人生の最終段階における医療・ケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと繰り返し話合う取組



北大阪健康医療都市

健都

KENTO

参考資料

「健都」における産学官民連携の取組

産学官民連携体制の構築に向け、大阪府・摂津市とも役割分担・連携し取り組む。

○ 具体的には、先進市の事例も参考にしつつ、

① 健都にふさわしい好循環を生み出す「仕組み・プラットフォーム」を構築する。

② 産学官民をつなぎコーディネートする担い手を見出す。

(取組内容のイメージ) ・関係者 (研究機関、企業、市民) の機運醸成

・ワークショップ等、試行的取組 (実証) の実施、持続的・効果的な運営手法の検討

実証フィールド



健都レールサイド公園
健都ライブラリー

実証フィールド
健康データを提供

仕組み
担い手

助言指導
研究成果の還元

クラスター形成



国循、健栄研、
ニプロ等進出企業

健康・医療のまちづくり「健
都モデル」

企業 (産) ・行政 (官) の連携
市民 (民) の参画

健康・医療クラスター形成
オープンイノベーション推進

企業 (産) ・アカデミア (学) 中心

『健都から生まれ・育み・広がるヘルシー・パークライフ』

●健康増進事業の運動プログラム回数⇒年間最大750回開催

※「健康遊具」(27基)を使ったトレーニングやストレッチ等のプログラム

※高齢者対象の介護予防プログラム(ラララ・フィット等)を展開

※週末は時節・季節を考慮した屋内外運動プログラムを自主事業(有料)で開催

※イスやポール、クッション等を使って部位や姿勢に変化をつけた10分プログラム

(ストレッチ・筋トレ)を実施



【ウォーキング / ノルディック
ウォーキング】



【ラララ・フィット】



【ラララ・サーキット・ライト】

●利用促進事業の生涯学習プログラム⇒年間140回以上開催

※文化・教養、趣味等の講座・イベント⇒市民のニーズに応える多様なプログラムを自主事業(有料)で開催

※ICT・IoT活用⇒「おおさか健活マイレージ」の利活用やシルバー層への携帯端末の安全な活用

※吹田市・健都(医療機関、商業施設、住宅など)・地域団体・大学・企業等との連携⇒認知症カフェ交流会等

●健都レールサイド公園



●健都ライブラリー

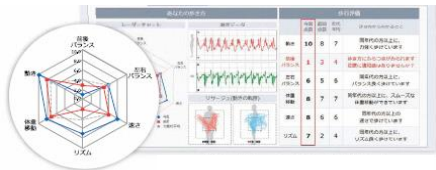
「管理運営方針」ヘルスリテラシーを高め、ヘルスコミュニティを構築し、ヘルスイノベーションを起こします。

●「ヘルスリテラシー」を高める健康増進事業を推進するために、 健都ライブラリー内にセルフチェック機器等を配置

全自動血圧計および体組成計



「Q's TAG walk」(キューズ・タグ・ウォーク)



「歩く」をはかる

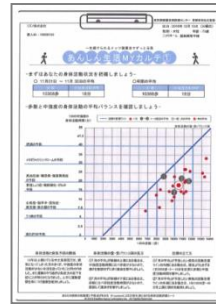
活動量計



▼ 記録読み込み



▶ 出力



ワイヤレス脈拍計「MiKuHa」



●健康相談コーナー

- ・健康遊具やメディカルウォーキングコースの使い方の説明やアドバイスを行います。
- ・特に種類の多い健康遊具については、**使用する部位・トレーニングの種類を考慮したメニューを提案。**
- ・健康運動指導士の有資格者を「健康づくり事業リーダー」として1名配置し健康相談に対応します。



【健康遊具の使い方説明】

「（仮）吹田市健康寿命延伸ビジョン」概要（案）

健康寿命延伸のための基本的な考え方を整理するため、庁内方針として検討中。

1 目指すべき暮らしのあり方

いつまでも元気に自分のやりたいことができる

2 ビジョンの位置づけ

- ・「健康寿命延伸に必要なこと」についての基本的な考え方（ライフスタイル）を整理し、共通認識とするための基礎となるもの。
- ・個別具体的な取組については、健康すいた21や吹田健やか年輪プランをはじめとする各種分野別計画に委ねる。

3 対象

すべての市民（特に無関心な層）

4 具体的な内容

「健康・医療のまちづくり」を具現化するための「健康」とは言わない「健康づくり」の取組
健康に暮らせるための「環境づくり」
健都ならでの取組の具現化
行政以外の主体との協働の取組

「（仮）吹田市健康寿命延伸ビジョン」と主な既存計画との関係

（仮）吹田市健康寿命延伸ビジョン

健康寿命延伸のライフスタイル

例えば…楽しむ・知る・人とつながる・眠る・動く・出かける・食べる・診てもらう 等

健康になるための環境づくり

例) 公園、歩きたくなるまちづくり 等

無関心な層への働きかけ

「健康」とは言わない「健康づくり」

(日常生活や趣味などを通じ、気づけば健康につながる仕掛けづくり)

吹田健やか年輪プラン

介護予防・フレイル対策・認知症支援

健康すいた21 健康づくり・疾病予防・重症化予防

妊娠期・乳幼児期

学齢期

成年期

壮年期

高齢期

ライフステージ

庁内推進体制「吹田市健康・医療のまちづくり推進本部」

- これまで、北大阪健康医療都市（健都）のまちづくりに関する連絡調整のため、北大阪健康医療都市まちづくり推進本部において総合的な議論を行ってきましたが、令和元年（2019年）7月に国立循環器病研究センターが移転開院し、健都のまちづくりにおける整備はおおむね完了したところ。
- 今後は、吹田市「健康・医療のまちづくり」基本方針に基づき、健都を含む市全体で、健康寿命の延伸に向けた各種施策に取り組んでいくため、全庁横断的な企画・推進が必要となることから、新たに吹田市健康・医療のまちづくり推進本部を設置。（令和元年10月に第1回本部会議を開催）

目的

吹田市「健康・医療のまちづくり基本方針」に沿って、本市における健康 寿命の延伸に向けた諸施策に関し、庁内における連絡調整を図り、健康・医療のまちづくりを総合的かつ効果的に実施する。

所掌事務

健康・医療のまちづくり及び健康寿命の延伸に関する以下の事項。

- (1) 諸施策の総合的な企画及び推進
- (2) 諸施策の総合調整
- (3) その他重要事項

組織体制

<本部会>

市長、両副市長、危機管理監、総務部長、行政経営部長、都市魅力部長、文化スポーツ担当理事、シティプロモーション担当理事、児童部長、福祉部長、健康医療部長、健康医療審議監、環境部長、都市計画部長、土木部長、学校教育部長、教育監、地域教育部長

<作業部会>

庁内の若手職員等を手上げ方式で募集し、ワークショップ形式で開催

（市民部、都市魅力部、児童部、福祉部、環境部、都市計画部、土木部、水道部、地域教育部から21名）

第1回 吹田市健康・医療のまちづくり推進本部 作業部会

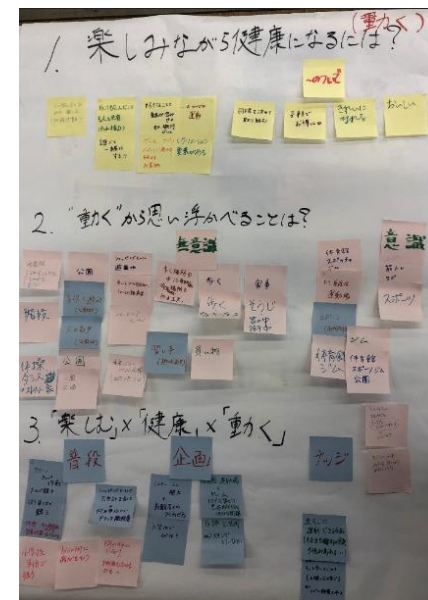
テーマ：「健康とは言わない健康づくり」

ゲスト：国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所
理事（兼 国立健康・栄養研究所 所長）
総務部総務課長

阿部 圭一 様
吉武 徹 様

開催日時：令和2年（2020年）1月14日（火）14:45～17:30

- 内 容：1 「（仮）吹田市健康寿命延伸ビジョン」の概要説明
2 阿部所長講演「健康長寿のサイエンスと近未来に向けた取り組み」
3 ワークショップ「楽しむ」×「健康」×「・・・」の健康づくりのアイデアを出そう！
5グループに分かれて、それぞれのグループのテーマ
（知る・人とつながる・動く・出かける・食べる）ごとに実施



健康すいた21（疾病予防・重症化予防）

健康づくりの機会の創設

【身近な生活環境の中で】

- 身近な商業施設で
減塩、野菜の適量摂取等生活習慣の改善に向けたポップの掲示

【学びの場】

- 健康教室・食育講演会
(国循と連携した市民公開講座も実施)

【楽しみながら知る】

- 健康展、健康EXPO等イベントでの情報発信

促進

【市民の一人ひとりの健康づくり】

- 健康サポーターの養成と支援、キッズ健康サポーターの養成
- アスマイルを活用した取組の推進
楽しみながら健康づくりに取り組める仕組みづくり、情報発信

疾病の早期発見・重症化予防

【健診システムの確立】

- 吹田市特有の健診システム
(30歳代健診、国保健診(40~74歳)、健康長寿健診(75歳以上))
国立循環器病研究センター予防健診部監修の生活習慣に着目した問診票、結果説明書、保健指導
- ハイリスク者・要医療者への支援体制(国保健診)
受診勧奨・保健指導、かかりつけ医と連携した糖尿病性腎症重症化予防事業(国保健診)

たばこ対策

- たばこ対策の総合的推進(スモークフリー推進庁内検討会議)
- COPDや受動喫煙防止の啓発イベントの実施
- 禁煙支援(禁煙治療費一部助成事業)

その他(研究等)

- 国立循環器病研究センターとの吹田研究(コホート研究)への協力
- 大阪大学大学院との禁煙治療費一部助成事業にかかる共同研究等

さらなる循環器病の予防に向けて

自然に健康になれる環境づくり・行動変容を促す仕掛け等新たな手法による健康づくりの推進
国立循環器病研究センター・国立栄養・健康研究所の知見を活用した新たな施策の推進
等、吹田ならではの取組を検討します。

吹田健やか年輪プラン

(介護予防・フレイル対策・認知症支援)

高齢者フレイル等予防推進事業の実施

- 令和元年度（国の補助金を活用）
 - 医療・介護情報等の一体的分析
 - 低栄養リスクチェック、健康教育媒体の作成、管理栄養士による個別相談
 - 個別相談結果評価
- 令和2年度（予定）
 - 低栄養リスクチェック、健康教育媒体の普及、管理栄養士による個別相談



Patona地域交流スペースでの介護予防教室の実施

- はつらつ体操教室（定員15名、週1回3か月コース）
令和2年1月開始コース 満員御礼！
令和2年7月、令和3年1月コース
終了後のグループ活動を視野に入れた卒業を目指した運営
をしている。
- 認知症予防教室（定員30名、週1回3か月コース）
令和2年度計画中！
- お口元気アップ教室
（定員40名、2回コース）
令和2年3月開始コース 2月市報で募集
令和2年度も計画中！

ひろばde体操での ノルディックウォーキングの取組について

※吹田市健康づくり事業団と
検討中

○ ひろばde体操実施会場数

平成30年度末	令和元年度末 (予定)
11	14

ストレッチや有酸素運動、すいたスマイル
体操を約20分実施



レールサイド公園でのひろばde体操

介護予防・認知症支援等の情報発信

○VIERRA岸辺健都クリニックモールインフォメーションカウンターの活用
介護予防、認知症等に関する各種催し情報や、啓発リーフレットの配架

○健都ライブラリーを活用した認知症支援、アクティブシニア情報等の発信（予定）

- 認知症支援に係る情報の発信、世界アルツハイマー月間を活用したイベント開催に関する情報発信
- 高齢者の社会参加促進のための取組の情報発信
 - ・地域元気アップ講座、助け愛隊養成講座、介護予防推進員養成講座、介護支援サポーター養成講座の開催情報
 - ・「人生100年時代、アクティブシニア集まれ！元気・健康フォーラム」（3月2日実施予定）で発表されたアクティブシニアの活動情報

在宅医療推進に関する取組

在宅医療推進における主な会議

在宅医療の需要が大幅に増大するなどの課題が顕在化することが想定されることから、地域包括ケアシステム構築の一環として、具体的な取組等の検討を行っています。

吹田市医療審議会

救急医療やその他医療に関する諸問題について、調査審議、答申

報告

意見

吹田市 地域医療推進懇談会

吹田市の地域医療の向上と連携

- 1 在宅医療推進の環境づくり
- 2 かかりつけ医等の定着促進

吹田市地域医療推進 懇談会作業部会

【地域医療推進室】

役割分担
連携

吹田市在宅医療・介護連携推進協議会

国が定める在宅医療・介護連携推進事業

吹田市ケアネット実務者懇話会

作業部会（4つ）

【高齢福祉室】

中核市移行後は、市保健所として、これまでの市域の在宅医療推進の取組と広域の保健医療計画の推進を一体的に推進していきます！！

目指す姿と検討すべき対策の柱（平成31年4月）

目指す姿

- 将来の在宅医療の医療需要に見合った在宅医療の供給体制の整備
- 医療関係者及び多職種連携により、安心して質の高いケアの提供体制の構築（※）
- 在宅医療やかかりつけ医等についての市民理解の促進 （※）在宅医療・介護連携推進事業とあわせて推進

対策の柱

1 在宅医療の推進及び在宅医療を支える連携体制の構築

- ① 医師の在宅医療に対する負担軽減のための連携体制の検討
（医師のグループ化等による連携や引継ぎ等）
- ② かかりつけ医等による在宅医療の充実
（かかりつけ機能の充実及び、訪問診療・訪問歯科診療・在宅薬剤管理指導の充実）
- ③ 訪問看護の事業所間の協力支援体制の構築、病院看護師との看看連携の促進
- ④ 病病連携・病診連携等の促進
急変時における入院受入れ体制の検討（バックベッドの問題）、
情報共有による連携促進の工夫（地域連携パス・ICTの研究・医療資源等のリスト化）

2 医療関係者等の理解や知識・スキルの向上

- 在宅医療や在宅療養、在宅看取り等についての知識や理解、技術の向上
（診療所医師・病院医師・病院看護師・退院支援担当者・薬剤師・歯科医師・施設職員等）

3 市民への啓発・情報提供

- 適正な病床機能やかかりつけ医、在宅医療という選択肢、最期の迎え方等について、市民啓発や情報提供のあり方の検討

訪問看護と病院看護の連携促進

- 在宅医療における訪問看護の果たす役割は非常に大きい、人材不足や病院との連携等が課題となっている。また、病院においても在宅医療への理解促進や入退院支援の充実等が大きな課題。
- それらを踏まえ、在宅療養患者を支える看護職の連携促進と訪問看護の活性化等のための具体的対策について、平成30年度作業部会にて議論。

平成30年度作業部会での議論

- 訪問看護事業所及び病院看護の抱える課題と取組みの現状について共有

訪問看護事業所の課題

訪問看護師の人材確保・育成
病院看護との円滑な連携体制の構築
訪問看護事業所間の連携やネットワーク構築

病院看護師の課題

在宅医療や訪問看護に対する理解促進
地域での生活を見越した看護の提供
認定看護師や専門看護師等の地域での活躍

- 訪問看護師の人材確保と病院看護師の在宅医療の理解促進を目的とした先駆的な取組例の横展開の可能性等について議論

【先駆的取組例】

病院看護師の訪問看護事業所への出向
病院看護師の訪問看護事業所への短期間の実地研修

- 訪問看護事業所が企画・運営している、病院看護師との連携促進のための研修会等のあり方や連携について議論

今後の取組の方向性

- 出向や実地研修のメリットについて、病院や訪問看護事業所に広く情報提供
→病院全体での検討の後押し、訪問看護事業所も効果や必要性を理解
- 短期間の実地研修に関するベーシックなプログラムを作成し、各病院へ情報提供
→新たに実地研修を始める際の負担軽減と、研修の質の担保等
- 訪問看護職能団体の担当者と市内5病院の看護師が連携・協力し、在宅療養・訪問看護等の理解促進、看看連携促進のための研修会等の企画

病病連携・病診連携の促進

- 入院医療と在宅医療の切れ目ない連携推進のためには、病床機能の違う病院間の患者の流れの円滑化や、在宅療養者の急変時の入院受け入れ体制の整備が必要
- そこで、病院職員の在宅医療に関する理解促進を目的とした研修会を実施
- また、その機会を活用し、円滑な病病連携を促進するための情報交換会を実施

病院職員対象研修会

- 目的：入院医療と在宅医療の切れ目ない医療連携実現のため、病院職員の在宅医療への更なる理解促進
地域の医療機能の適切な分化・連携の促進
- 対象：市内病院の医師・看護師・連携室職員 等
- 内容
 - (1) 「病院から在宅へ 切れ目のない医療提供をめざして」
医療法人 整友会 理事長 財田 滋穂
 - (2) 「在宅療養者の現状と病院との連携」
済生会吹田訪問看護ステーション
所長 児浦 博子
 - (3) 「在宅医療推進の観点からみた病病連携について」
吹田市健康医療部地域医療推進室職員
 - (4) 意見交換会（顔の見える関係づくりの機会）
病病連携促進のための病院間での情報交換 等

病院の在宅療養者への対応状況の情報提供

- 目的：病院と診療所等との連携促進
- 内容：市内15病院の行う在宅療養者への対応について調査・情報集約し、医療介護関係者へ一覧表を配布



ACP（アドバンス・ケア・プランニング）に関する取組

- 人生の最終段階において、本人の意思が確認できないために、本人の望まない救急搬送や、治療の選択等について家族が困惑する事例が多く見受けられる
- 人生の最終段階における医療・ケアに関しては、十分に本人の意思が尊重されることが重要
- 医療介護現場における、本人の意思決定支援の実践も十分でなく、ACPの中心的役割を担う医療介護関係者への理解促進も重要な課題

ACP（アドバンス・ケア・プランニング）：人生の最終段階における医療・ケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと繰り返し話合う取組

ACPの普及促進に関するあり方の検討

- ・ 人生の最終段階における医療やケアに関する意思決定の現状や課題の整理
- ・ ACPに関する市民啓発リーフレット（知ってみようver.）の作成
- ・ 行政のみならず、医療介護関係者も主体的に市民啓発を展開していくために、「ACPの市民啓発の全体像」を整理
- ・ 医療介護関係者の理解促進・スキル向上のため、市や医療介護関係者が行う取組やその取組を促進する方法の検討
 - 理解促進が必要な現状や理解を深めるべきポイント・取組の実現に向けたヒントや例をまとめ医療介護関係者への配付を検討

今後も引き続き検討

- ・ ACPに関する市民啓発リーフレット（書いてみようver.）の作成
- ・ 市民、医療介護関係者への普及啓発の具体的内容等の検討



かかりつけ医等の定着促進

- 市民が安心して必要な医療サービスを受けられるようにするためには、地域の医療機能の適切な分化・連携により、入院医療から在宅医療への切れ目ない医療連携が必要
- また、本人や家族が在宅療養や在宅看取りを希望する場合も、安心して在宅医療が受けられる体制整備が必要
- それらの医療連携や在宅医療推進においては、かかりつけ医等の役割が十分に発揮されることが重要であり、市民への普及啓発が重要
- そこで、かかりつけ医等の定着促進のための市民啓発のあり方について議論



かかりつけ医等の定着促進に関する 市民啓発のあり方の検討

- ・ 医療のかかり方やかかりつけ医等の定着についての現状や課題の整理
 病院における市民の受診行動と医療現場の現状と課題
 市民の理解の現状や課題 など
- ・ 市民目線から想定される、かかりつけ医等の定着促進が進まない要因についての議論
- ・ 市民の立場に立った具体的な啓発内容の検討
 かかりつけ医等を持つことが必要な背景・メリット・定義・選び方など
- ・ 行政や医療関係者が取り組む市民啓発の方法等の検討

市民啓発（シンポジウム・講演会等）

○超高齢社会に対して、自分や自分の家族が長期療養を要する状態となった時にどう過ごすのかということを知りたい、在宅で療養したり、在宅で最期まで過ごすという選択肢もあるということを知っていただくために、在宅医療の具体的内容についての講演会等を実施

○病床の機能分化・連携を踏まえた適切な受診行動の推奨や、かかりつけ医等の定着促進のために、市民が医療との関わり方等について主体的に考えることができるよう、市民啓発を行う

今年度の講演会

地域医療推進市民講演会

○「人生の最期はわたしらしく ～あなたに寄り添う在宅医療～」

おきしろ在宅クリニック 沖代 奈央 医師

○パネルディスカッション「本人、家族が望む看取りの実現を目指して」

おきしろ在宅クリニック 沖代 奈央 医師

リード訪問看護ステーション 三輪 真由美 看護師

ケアプランセンターあす～る吹田 菊澤 薫 ケアマネジャー

○在宅看取りを経験した患者家族からの体験談



出前講座

「お医者さんの上手なかかり方」
「在宅療養という選択肢」

○対象
市内在住・在勤・在学のグループ

平成29年度 シンポジウム

「知ろう！考えよう！病院のかかり方から在宅医療まで」

○「知ろう！病院の役割、考えよう！病院のかかり方」

奈良県立医科大学 教授 今村 知明 氏

○パネルディスカッション

病院の機能と役割、在宅療養を支える医療体制

平成30年度 講演会

「知っていますか？在宅医療のこと」
～在宅療養という選択肢～

○「在宅医療について～在宅医療という選択肢～」

おきしろ在宅クリニック 医師 沖代 奈央 氏

○「地域に寄り添う訪問看護」

協和訪問看護ステーション 所長 上山 美紀氏